北朝鮮問題グループ

シミュレーション・シナリオ

|  |
| --- |
| **2017年10月21日に、北朝鮮・アメリカ・韓国・中国・ロシア・日本の６カ国首脳が法政大学にて北朝鮮問題に関する集中協議を行ってから、一年がすぎた。2018年冬、朝鮮半島情勢は再び大きく動こうとしていた。というのも11月26日、トランプ大統領が、金正恩総書記との間で不十分な非核化合意を結ぼうとしていることが発覚したのだ。**  **その内容は次のようなもので、関係各国に衝撃を与えた。**  **・北朝鮮は、2020年10月末までに、東倉里（トンチャンリ）にあるミサイルのエンジン試験場と発射台を廃棄する。また寧辺（ヨンビョン）で現在確認されている、ウラン濃縮施設を含む核施設を廃棄する。**  **・これらの廃棄がアメリカとＩＡＥＡによって確認されれば、アメリカは北朝鮮に対する経済制裁を解除し、かつ、朝鮮戦争の終戦宣言を行う。**  **・朝鮮戦争の終戦宣言にともない、在韓米軍は撤退する。**  **・さらにアメリカは、北朝鮮への投資促進のため、米朝二国間で経済協力協定を結ぶ。**  **中間選挙後のトランプは、2020年11月の大統領選挙での再選を明確に意識していた。言うなればトランプは、北朝鮮問題を政治利用しようとしたのだ。同日トランプはツイッターで、「アメリカの前政権は、北朝鮮が核兵器を開発するのをただ眺めているだけだった。私が、北朝鮮の非核化の問題を解決できる唯一の大統領だ」と発信した。**  **しかし、トランプの提案では、北朝鮮の完全な非核化は実現できないと見られた。というのも、トランプの提案では、現在まだ明らかになっていない、他の秘密のウラン濃縮施設や関連する核施設の調査が行われないことになるからだ。それだけではない。北朝鮮国内には、秘密裏に貯蔵（stockpike）されている核弾頭があると言われていたが、それら未知の核弾頭を他国やＩＡＥＡが調査することもできなくなるのである。**  **北朝鮮の保有する核兵器や関連施設の実態が分からない以上、トランプの提案だけが履行されて、朝鮮戦争の終結宣言が出されてしまうと、日本や韓国を射程に入れた核兵器やミサイル施設が残ってしまう可能性が大きかった。実際、2018年11月に入っても、****咸興（ハムフン）の固形燃料工場などは稼働していると見られていた。**  **トランプは、一年ぶりの６カ国協議の復活をツイッターで呼びかけた。意外にも早く反応したのはプーチン大統領だった。ＩＮＦ全廃条約からのアメリカの離脱や、対ロ経済制裁問題を背景に、プーチンは米ロ関係を改善するためにトランプの提案を支持した。そして、自らは６カ国協議には参加せず、他の５カ国の首脳による協議の結果にしたがうと表明したのだった。**  **ロシアを除く５カ国の利害関係はさまざまだった。親北政策をとっていた韓国の文在寅（ムンジェイン）大統領にとって、在韓米軍の全面撤退はメリットとデメリットがあり、容易に判断することが難しかった。安倍晋三首相は、北朝鮮との国交交渉には前向きだったが、日本人の拉致問題を抱えており、さらに北朝鮮に核兵器が残ってしまうことは容認できなかった。また中国としては、アメリカ主導で北朝鮮問題が進み、米朝二国間で経済協定が結ばれてしまうと、アメリカの朝鮮半島への影響力が過度に大きくなるため好ましくなかった。**  **こうして12月８日、それぞれの思惑を抱える北朝鮮（金正恩総書記）、アメリカ（トランプ大統領）、中国（李克強首相）、韓国（文在寅大統領）、日本（安倍晋三首相）の５カ国首脳は平壌の百花園迎賓館に集まり、５カ国協議を行うことになった。各国の首脳は、国益をいかに最大化するかという交渉と選択を迫られることになったのである。** |

Ｍｏｖｅ１

・各班で行動計画書を検討し、①班の目標と、②各国に何を働きかけるかを決めて、行動計画書を完成させて下さい。

Ｍｏｖｅ２

・作成した行動計画書に基づき、目標の実現をめざして、他国との交渉を行って下さい。

・同時並行で交渉が入る可能性があるので、適宜、役割分担と認識の共有を行い対応して下さい。

・各班で、交渉の経過を記録しておいて下さい。問い合わせがあればラインで本部班に連絡して下さい。